

論理的な読解力を伸ばす授業 —漢文学習における根拠を明確にした読解—

- 1 科目名 国語総合
- 2 単元名 漢文入門
- 3 教材名 故事成語 (本時の振り返りシート)
- 4 単元の内容

単元の目標
と評価規準
・評価方法

①単元の目標

- | | |
|---|---|
| ア | 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読もうとする。
(関心・意欲・態度) |
| イ | 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。(読む能力) |
| ウ | 文語のきまり、訓読のきまりなどを理解する。(知識・理解) |

②単元の目標設定の理由

- ・本校の生徒は学習に対する苦手意識が強く、本クラスは入学当初の独自アンケートにより古典への苦手意識や嫌悪感を抱いている生徒が17名中15名在籍していることが分かった。(なお、漢文分野のみに関する苦手意識のアンケートでは、17名中16名が漢文に対して苦手意識を抱いていることが分かった)その苦手意識解消のため、本文の内容理解に重点を置いた授業を展開することは必須項目である。しかし、内容理解のみに傾倒した授業を展開すると、教材が変わればまた同じように読み取りができないということに陥りかねない。そのため、年間を通して論理的な読解力を伸ばす授業を展開してきた。文法事項を含めて、根拠を明確にした読解を授業内に取り入れることで、苦手意識を解消させ、今後の学習時に初見の文章に出会った時にも大意を読み取ることができるようにしたいと考えたからである。

- ・本教材は、漢文学習の導入教材である。教材の特徴として以下の点がある。

- (i) 現代の日常になじみの深い内容であり、生徒が親しみやすい。
- (ii) 一文が短く、読解しやすい。
- (iii) 反復音読によって、漢文口調に慣れ親しませやすい。
- (iv) 基本的な漢文訓読の知識を身に付けやすい。

以上の教材の特色を意識しながら、漢文訓読に関する既習事項を一つ一つ丁寧に確認しながら読解することで論理的に漢文読解をできるようにさせたい。

- ・本クラスは、古典への苦手意識や嫌悪感を抱いている生徒が多く、中学校までの学習内容が定着していない生徒が多い。一方で、学習意欲は高く、これまでの授業で文法事項の学習も積極的に行う姿が多く見られ、新しいことを積極的に学ぼうとする意識がある。その学習意欲を生かしつつ、既習事項の定着と新規事項の学習とのバランスを考えながら授業をすることで、生徒が力を十分に発揮できると考える。漢文の本格的な読解は初めてであるが、読解のための文法事項を指導しつつ、内容を現代の日常生活につなげながら授業をしていき、理解を促したい。

③中心となる学習活動

- ・古典への苦手意識があるため、学習を短く区切って「何について学習する時間であるのか」を明確にする必要がある。そのため、書き下し文を確認する時間、本文の読みを確認する時間、音読をして漢文口調に慣れ親しむ時間、本文読解をする時間等、明確に時間を分けして学習を展開する。
- ・漢文読解は、返り点等の漢文訓読法を駆使しながら、古文の知識も活用して読解をする必要がある。そのため、必要に応じて「文語助動詞活用表」を用いて学習する。また、現代語訳をする時は、現代の日本語の知識も織り交ぜながら行う必要がある。そのため、漢字一字の意味を確認する時に、熟語を作らせて現代語訳につなげたい。

④言語活動の工夫

- ・教師が黒板に本文(訓読文)を書き、書き下し文を生徒に板書させる。また、漢文口調に慣れ親しませるために、積極的に音読の時間を設ける。読解時には根拠を明確にした読解をさせる。根拠とは、漢文訓読法や基本句法であり、「文語助動詞活用表」であり、漢字一字が表す意味に関係した熟語である。それらを駆使して自分自身で読解したり、仲間とともに考えたりする活動を取り入れる。

⑤評価

	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応
関心・意欲・態度	①本文に興味を持ち、読解をしようとしている。 ②伝統的な言語文化への興味・関心を広げている。	観察（机間指導） 点検（発言・記述内容）	・目標達成のための項目を具体的に生徒に伝える。 ・周囲の生徒との交流や教え合いを促す。
読む能力	①本文の内容を表現の特色に即して根拠を明確にして読み取っている。 ②本文の内容を現代の日常生活とつなげて読み取っている。	観察（机間指導） 点検（発言・記述内容）	・訓読のきまりや文語助動詞活用表等の既習事項を確認させる。 ・自分自身の実体験とつなげたり、周囲の生徒の話を聞いたりして考えるように助言する。
知識・理解	①文語のきまりと訓読のきまりを理解している。	観察（机間指導） 点検（発言・記述内容） 定期考査	・文語のきまりと訓読のきまりをノートや教科書で確認させ、読解するように助言する。

成果と課題

- 【成果】**
- ①全ての生徒が積極的に挙手や発言をしていた。
 - ②学習を短く区切ることで苦手な生徒や集中力が続かない生徒も取り組むことができた。（メリハリのある授業展開をすることができた。）
 - ③基本的な訓読のきまりを文章の中で指導することにより、生徒も実感の伴った理解ができていた。
 - ④単に知識だけで終わってしまいがちな故事成語の内容理解だけでなく、漢文と現代生活のつながりを考えることで興味や関心を広げることができた。
 - ⑤古文の時間から活用してきた「文語助動詞活用表」を見ながら漢文の現代語訳を考えている生徒や漢字一字の意味を考えながら現代語訳を考えている生徒が多数おり、学習の継続ができていた。
 - ⑥故事成語を2例ずつ読解した中で、1例目は全体で読解をしていき、2例目はグループで読解をするという学習の流れがあったことにより、グループ活動が円滑にできていた。目的に応じた学習形態の選択ができていた単元であった。
- 【課題】**
- ①個人で考える時間が十分に取れていなかった。
 - ②授業スピードについていけない生徒が若干名いた。

アドバイス
及び
留意点

- 【アドバイス】**
- ①生徒の実態に応じた授業展開をすることは非常に大切である。生徒の実態は、日々の授業での様子、問題演習に取り組む姿勢、定期テストでの記述内容等により捉えるのが一般的である。さらに生徒の実態を正確に捉えるための有効な手段として、単元実施前アンケートや各授業後の反省（自由記述が望ましい）があるため活用したい。
 - ②実態を捉えることができたなら、段階に応じた授業形態を選択する。授業形態には様々なものがあるため、教員自身が指導法を研究することを日頃から心がけるようにしたい。
 - ③グループ学習やペア学習は、学習活動形態（指導法）の一つであるため、活動自体が目的とならないように、その学習活動形態を取り入れる目的を明確にする必要がある。
 - ④読解力は、根拠を明確にした読解を蓄積させることで伸びると考える。そのため、既習事項を確認しつつ、新規指導事項を系統的に取り入れていくようにする。いずれの場合でも最終的な目標を明確にした上でその目標に向かって日々の授業を展開するようにしたい。また、日頃の授業から生徒へ目標を伝え、生徒自身が何を学ぶべきか考えさせるようにしたい。
- 【留意点】**
- ①故事成語は漢文学習の導入教材である。教材の特徴を大いに生かすことができるように指導したい。特に漢文口調に慣れ親しみやすいこと、一文が短く基本的な漢文訓読の知識を身に付けやすいこと、現代の日常生活にも通ずるものがあることは特筆すべき点である。
 - ②授業は知識を学ぶ時間、考えを広げる時間、考えを深める時間等、明確に切り分けて指導した方が生徒は活動しやすい。

①（中学・1年・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

小中学校との系統性	<p>(1) ア 伝統的な言語文化に関する事項 (ア) 文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。</p> <p>② (中学・2年・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項) (1) ア 伝統的な言語文化に関する事項 (イ) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。</p> <p>③ (中学・3年・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項) (1) ア 伝統的な言語文化に関する事項 (ア) 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。</p>
-----------	---

5 単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	○故事成語2例を読み、句法や漢字の意味を理解して読解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「大器晩成」「有備無患」の2例の書き下し文を確認する。 【Cア・伝ア(イ)】 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・教師が訓読文を板書し、それを元に代表生徒が書き下し文を板書する。 ・「大器晩成」「有備無患」を音読する。 【Cア・伝ア(イ)】 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・何度も音読することで漢文口調に慣れるようにする。 ・読みを確認し、訓読文の横にふりがな等を記述させる。 ・「大器晩成」を読解する。 【Cア・伝ア(ア)(イ)】 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・「大器」と「晩成」が比喻しているものを考えさせながら現代語訳する。 ・「有備無患」を読解する。 【Cア・伝ア(ア)(イ)】 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・レ点の訓読法を確認しながら読解させる。 	<p>訓読文から読解しようとしている。 【関】</p> <p>↓</p> <p>観察(机間指導) 点検(記述の確認)</p> <p>文語のきまりと訓読のきまりを理解し、本文の内容を表現の特色に即して根拠を明確にして読み取っている。</p> <p>【知】 【読】</p> <p>↓</p> <p>観察(机間指導) 点検(発言・記述内容)</p> <p>本文の内容を現代の日常生活とつなげて読み取っている。</p> <p>【読】</p> <p>↓</p> <p>観察(机間指導) 点検(発言・記述内容)</p>	<p>指名発言をさせる中で、細かくヒントを出していく。周囲の生徒との交流や教え合いを促す。</p> <p>訓読のきまりや文語助動詞活用表等の既習事項を確認させる。</p> <p>↓</p> <p>机間指導にて記述内容を確認する。</p>
2	○故事成語2例を読み、句法や漢字の意味を理解して読解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「歳月不待人」「千里之行始於足下」の2例の書き下し文を確認する。 【Cア・伝ア(イ)】 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・教師が訓読文を板書し、それを元に代表生徒が書き下し文を板書する。 ・「歳月不待人」「千里之行始於足下」の音読をする。 【Cア・伝ア(イ)】 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・何度も音読することで漢文口調に慣れるようにする。 ・読みを確認し、訓読文の横にふりがな等を記述させる。 ・「歳月不待人」を読解する。 	<p>訓読文から読解しようとしている。 【関】</p> <p>↓</p> <p>観察(机間指導) 点検(記述の確認)</p> <p>文語のきまりと訓読のきまりを理解し、本文の内容を表現の特色に即して根拠を明確にして読み取っている。</p> <p>【知】 【読】</p> <p>↓</p> <p>観察(机間指導)</p>	<p>指名発言をさせる中で、細かくヒントを出していく。周囲の生徒との交流や教え合いを促す。</p> <p>訓読のきまりや文語助動詞活用表等の既習事項を確認させる。</p> <p>↓</p> <p>机間指導にて記述内容を確認する。</p>

		<p align="center">【Cア・伝ア(ア) (イ)】</p> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「不」が打消しの助動詞であること及び書き下し文の際には、ひらがなに直す必要があることを理解させる。 ・「歳月」が年月を表すことを理解させる。 <p>・「千里之行始於足下」を読解する。</p> <p align="center">【Cア・伝ア(ア) (イ)】</p> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「之」が助詞であり、書き下し文の際にはひらがなに直す必要があることを理解させる。 ・「於」が置き字であることを理解させる。 ・「千里」が距離を表すことを理解させる。 ・熟語を作成させて「行」が旅行(旅)を表すことを理解させる。 ・現代語訳はグループで考えさせる。 	<p>点検(発言・記述内容)</p> <p>本文の内容を現代の日常生活とつなげて読み取っている。</p> <p align="center">【読】</p> <p align="center">↓</p> <p>観察(机間指導) 点検(発言・記述内容)</p>	
<p align="center">3 (本時)</p>	<p>○故事成語2例を読み、句法や漢字の意味を理解して読解する。</p>	<p>・「青取之於藍而青於藍」「不入虎穴不得虎子」の2例の書き下し文を確認する。</p> <p align="center">【Cア・伝ア(イ)】</p> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が訓読文を板書し、それを元に代表生徒が書き下し文を板書する。 <p>・「青取之於藍而青於藍」「不入虎穴不得虎子」の音読をする。</p> <p align="center">【Cア・伝ア(イ)】</p> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何度も音読することで漢文口調に慣れるようにする。 ・読みを確認し、訓読文の横にふりがな等を記述させる。 <p>・「青取之於藍而青於藍」を読解する。</p> <p align="center">【Cア・伝ア(ア) (イ)】</p> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「於」「而」が置き字であることを理解させる。 ・「之」は助詞の「之」とは違うことを理解させる。 ・「青」と「藍」が比喻しているものを考えさせる。 <p>・「不入虎穴不得虎子」を読解する。</p> <p align="center">【Cア・伝ア(ア) (イ)】</p> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「不」が打消しの助動詞であること及び書き下し文の際には、ひらがなに直す必要があることを理解させる。 ・「虎穴」と「虎子」が比喻しているものを考えさせる。 ・現代語訳はグループで考えさせる。 	<p>訓読文から読解しようとしている。</p> <p align="center">【関】</p> <p align="center">↓</p> <p>観察(机間指導) 点検(記述の確認)</p> <p>文語のきまりと訓読のきまりを理解し、本文の内容を表現の特色に即して根拠を明確にして読み取っている。</p> <p align="center">【知】 【読】</p> <p align="center">↓</p> <p>観察(机間指導) 点検(発言・記述内容)</p> <p>本文の内容を現代の日常生活とつなげて読み取っている。</p> <p align="center">【読】</p> <p align="center">↓</p> <p>観察(机間指導) 点検(発言・記述内容)</p>	<p>指名発言をさせる中で、細かくヒントを出していく。周囲の生徒との交流や教え合いを促す。訓読のきまりや文語助動詞活用表等の既習事項を確認させる。</p> <p align="center">↓</p> <p>机間指導にて記述内容を確認する。</p>

6 第3時の学習指導案

本時の位置	3時間目（全3時間）		
本時の学習目標	<p>ア 教材に興味を持ち、伝統的な言語文化への興味・関心を広げようとしている。 （関心・意欲・態度）</p> <p>イ 文語のきまりや訓読のきまりを用いて本文を読解し、現代の日常生活と内容をつなげようとしている。 （読む能力）</p>		
事前の準備	<p>①訓読文をノートに書き写させ、訓読文から書き下し文を作成させ、ノートに記述させておく。</p> <p>②生徒に説明するために故事成語と関連のある具体例を考える。</p>		
	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 10分	<input type="checkbox"/> 漢字学習 <input type="checkbox"/> 前時までの復習と本時の学習内容と目標の確認	<p>①ランクアップ漢字3800に取り組み。</p> <p>②前時までの内容をノートで確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タイマーを用いて、演習時間と答え合わせの時間を明示する。 ・漢字学習の時間に教師が訓読文を板書する。 ・前時までの内容に関する発問をし、本時の目標の確認につなげる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 本時の目標：故事成語がたとえているものと、現代の日常生活とのつながりを読み取る。 </div>		
展開 ① 5分	<input type="checkbox"/> 書き下し文の確認と音読をする。	<p>③書き下し文を確認する。</p> <p>④音読をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・代表生徒に2例とも板書させ、答え合わせをする。 ・「於」「而」が置き字であることを確認する。 ・2例とも繰り返し音読をして漢文口調に慣れさせる。 ・「不」が打消しの助動詞であること及び書き下し文の際には、ひらがなに直す必要があることを理解させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 目標イに対する評価規準と評価方法 [規準] 訓読文を書き下し文に直している。 [方法] 点検（記述の確認） [状況Cの生徒への手立て] ・訓読のきまり等の既習事項を確認させる。 </div>
展開 ② 12分	<input type="checkbox"/> 「青取之於藍而青於藍」を読解する。	<p>⑤現代語訳を考える。</p> <p>⑥「青」と「藍」が比喻しているものを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「之」は助詞の「之」ではなく、代名詞の「之」であることを理解させる。 ・「藍の花」の写真を見せて実感を持たせる。 ・「出藍の誉れ」を紹介して理解を促す。 ・現代の日常生活とつながりのある例を紹介する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 目標アに対する評価規準と評価方法 [規準] 伝統的な言語文化への興味・関心を広げようとしている。 [方法] 点検（発言、記述の確認） [状況Cの生徒への手立て] 周囲の生徒との交流や教え合いを促す。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 目標イに対する評価規準と評価方法 [規準] 文語のきまりや訓読のきまりを用いて本文を読解し、現代の日常生活と内容をつなげようとしている。 [方法] 点検（発言、記述の内容） [状況Cの生徒への手立て] 前時までの既習事項を確認させる。 </div>
展開 ③ 18分	<input type="checkbox"/> 「不入虎穴不得虎子」を読解する。	<p>⑦現代語訳を考える。</p> <p>⑧現代語訳をグループで考える。（3分）</p> <p>⑨全体交流で現代語訳を確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「文語助動詞活用表」を用いながら現代語訳をするように助言する。 ・各グループ代表生徒に発表させる。 ・「青」と「藍」も参考にするように助言する。

		<p>する。(5分)</p> <p>⑩「虎穴」と「虎子」が比喻しているものをグループで考える。(3分)</p> <p>⑪全体交流をする。(3分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・代表生徒に発表させる。 ・「虎の子」を紹介して理解を促す。 ・現代の日常生活とつながりのある例を紹介する。 <p>目標Aに対する評価規準と評価方法 〔規準〕伝統的な言語文化への興味・関心を広げようとしている。 〔方法〕点検（発言、記述の確認） 〔状況Cの生徒への手立て〕 周囲の生徒との交流や教え合いを促す。</p> <p>目標イに対する評価規準と評価方法 〔規準〕文語のきまりや訓読のきまりを用いて本文を読解し、現代の日常生活と内容をつなげようとしている。 〔方法〕点検（発言、記述の内容） 〔状況Cの生徒への手立て〕 前時までの既習事項を確認させる。</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>□本時のまとめと振り返りをする。</p>	<p>⑫本時の理解できたことをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者による本時のまとめをする。 ・振り返りシートを配付し、記入後回収する。